

南あわじ市 平成 18 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 1050

事業名	少人数学級等臨時教諭		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	学校教育課		款	教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3018			項	教育総務費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務			目	教育振興費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		まちづくりの柱 人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_		
	まちづくりの目標		一人ひとりが明日を拓くりーダー【教育】		
	施策目標		子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する		
該当する事業について「 」を選択			施策的	業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 大規模学級・不安定学級で同室複数指導を行い、基礎基本の定着及び習熟度の低い児童のケア。特別支援学級の複数在籍学級(特に情緒)への支援。 対象人数(人) 265 意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) ・基礎基本の確実な定着。 ・パニックを起こさず、児童が安心して学校生活ができる環境をもたらす。 ・同室複数指導の利点を生かし、勉強面での躓きを見逃さずその場で指導し、集中力を維持して授業を受ける。
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) ・多人数及び不安定学級には、2人の教諭により同室複数指導をする。 ・特別支援学級では、重度情緒障害児2名が在籍しており、パニックを引き起こすことなく指導するため個別で児童に関わる。 ・高機能自閉症児への生活支援(主に級友とのコミュニケーション)及び習熟度に差がある2年生国語科への同室複数指導。 ・重度知的障害児2名(情緒との重複児)の個別指導及び低学年への基礎基本定着を図る同室複数指導。
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) ・知的、情緒面の障害を持つ児童は、最近特別支援学校へ入学せず居住地の学校へ希望することがほとんどであり、なおかつ重複した障害を持つ児童も増えてきている。それと幼児期に保育所・幼稚園等で1人のために加配保育士を付けている例がかなり見受けられる。これらのことから、複数指導対応が必要になってきている。 ・家庭教育力不足なのか(特に生活習慣の基礎基本)集中力に欠ける児童が増えてきている。まず勉強に取り組む姿勢を身につけさせなくてはならない等低学年指導が重要である。 ・不安定学級は過去に学級崩壊を起こしており、市単教諭を含め学校全体でケアにあたっている。また低学年でも集中力不足児童が多数おり予断を許さない状態である。 ・雇用条件が悪いので、毎年人材確保が非常に苦労している。
	事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 () <input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から なし

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	市単教諭配置校数			指標単位 校
	指標説明 (指標算出方法等)	次年度予算時に各小中学校よりの要望数			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	3	4	3	3
	実績値	3	4	3	
	達成度 (%)	100.0	100.0	100.0	-
目標値設定の考え方	各小中学校よりの市単教諭配置要望数				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	配置による効果			指標単位 点
	指標説明 (指標算出方法等)	市単教諭が配置されたことによる学級・学校経営効果			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	300	400	300	300
	実績値	300	400	300	
	達成度 (%)	100.0	100.0	100.0	-
目標値設定の考え方	1校当たり100点を最大効果とする(実績値は予想以上の効果をもたらした場合は100を超えることもある)基礎資料は実績報告書の効果を参照している。				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	9,328	9,754	5,143	7,829
	臨時教諭賃金	8,389	8,564	4,468	6,899
	共済費	939	1,190	675	930
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	9,328	9,754	5,143	7,829
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	9,328	9,754	5,143	7,829
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	35.2	36.8	19.4	29.5	
受益者人数(265)1人当り経費(千円)	35.2	36.8	19.4	29.5	
経費に関する補足説明					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		%	100.0	100.0	100.0	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) ・厳正に精査した結果、要望どおり配置できることになった。							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
	成果向上率	%	-	33.3	25.0	-	
	(事業実施による目的に対する有効性分析、問題点・課題などを記入。) ・学級及び学校経営の健全化に繋がり、児童生徒も授業を理解するようになり学習意欲が増してくる。 ・特別支援学級の場合、当初計画の有効性が疑問視してきたときの即時対応、保護者の過剰な要求に対する対応が問題である。						
							4
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		千円	3,109.3	2,438.5	1,714.3	-	
	効率性増減率	%	-	21.6	29.7	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) ・県よりの目的にあった加配が十分もらえれば、削減の余地は十分あります。							3
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低					自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) ・県より十分な加配教員が見込めない以上、市の施策としてやっていくべきものである。 ・市単教員が配置されないと学級経営困難に陥ってしまう。						
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		評価グラフ 				
	・市単教員が配置されることにより学級経営及び学校経営が持ちこたえている現状であり、必ず必要な人材であり、学校内での存在も大きい。 ・本来教職員は県費負担で賄われるべきだが、希望どおりの加配はなかなか望めないのが、市費負担で賄わなければならない現状である。 ・児童生徒の多様化、特別支援学級への多人数在籍等年々必要性は高まっている。 ・補助という制約があるため、市単教諭の中には勤務においての「満足感」が物足りなく思っている人もいます。						

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>・特別支援学級は障害種別で9人以上在籍者がいないと学級増(教員増)にはならないため、健全な学級経営をするためには市独自の施策が必要であり、最低限現員確保が必須であると考ええる。</p> <p>・多人数学級は、学級経営が安定軌道に乗る、もしくは卒業で配置解消できる項目である。</p> <p>・現配置校以外からも要望が出てきているので、現員確保しつつ、配置要望を厳正に精査して増員要望をするのか考える。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)	配置要望を厳正に精査して適切に臨時教諭を配置していく。	同左
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	学級経営が安定することで、児童生徒の教育環境の向上が期待できる。	同左
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	
中止・統廃合の影響	<p>・プラス面はなし。</p> <p>・廃止されると、学級経営に重大な支障をきたし、児童生徒の学力保障・安全面の配慮等問題の所に目がいなくなる。普通教室での授業が成り立たなくなる。</p>	